持続可能な社会―生態システムの実現に向けた研究

関連するSDGsの国際目標

環境科学部　環境政策・計画学科　　講師　　堀　啓子
研究分野　：環境工学、社会-生態システム

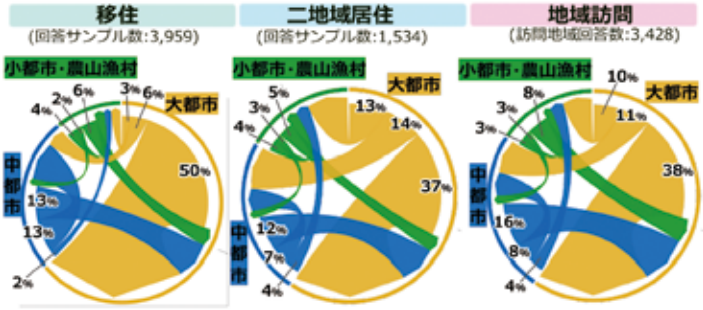
相互に関連する人間社会と自然生態系の関係について、その持続可能なあり方を探ることを目指し、自然生態系への関わりを規定する人間社会側の変化の調査分析や、それによる自然生態系への影響分析を行っています。

■地域における自然エネルギー利用の多面的な評価

脱炭素化に向けて拡充が必要な自然エネルギーは、地域のエネルギー自給力や経済にプラスの効果を与える可能性がある反面、地域の自然環境を壊してしまう恐れもあります。環境・経済・社会など多面的な側面から、自然エネルギー利活用が地域に与える影響を評価し、地域に望ましい自然エネルギー利用の在り方を探ります。

■人々のライフスタイルの変化と自然生態系への影響

生態系が私たちに与える様々な恩恵は、人々が生態系を適切に管理し、またその恩恵を必要とすることで、初めて生態系サービスとして成立します。ですが現在、地方部の過疎化や消費構造の変化によりそのバランスは歪んでいます。例えば地方移住の推進や関係人口の創出、消費生活の変化など、生態系サービスを規定するどのような変化が人間社会に生じ、あるいは可能であり、それはどう自然生態系との関係を持続可能なものにするのか、定量的な社会調査やシナリオ分析で明らかにします。



■自然生態系との関わりについての人々の認知や有効なガバナンスの分析

自然生態系との関わりを持続可能なものにするための変革は、人間社会側の選択と決定によるものです。どんな人がどう自然生態系と関わり、その認知は新しい環境政策などの変革の選択にどう影響するのか、またどのような意思決定や管理体制の仕組みがあれば、人間社会はより持続可能な形で自然生態系と関われるのか？定量的・定性的な社会調査から紐解きます。